

『テキスタイル 表現と技法』
正誤・増補表

【2007年4月 初版1刷】

● p.12 下から2つ目の図版キャプション
(誤) 小池由香
(正) 小池裕香

● p.22 10行目
「ブロックプリント (Block Printing)」を前段落につ
なげ、本文扱いとする

● p.29 24-25行目
(誤) 理想に近づける。
(正) 理想の色みに近づけていく。

● p.30 下から7行目
(誤) また、先に色を
(正) また、白布ではなく、先に色を

● p.32 最下行のキャプション
(誤) 1976 制作:宮本百合
(正) 1973 制作:上田さつき

● p.34 中段・6行目
(誤) 布に直接文様を表す方法で、
(正) 布に直接文様・形を表す方法で、

● p.34 右段・1行目
(誤) 表したい形を抜いていく。
(正) 表したい文様・形を抜いていく方法。

● p.34 右段・下から2行目
(誤) 防染となる。
(正) 防染される。

● p.34 右段・最下行
(誤) 縫い締めしてから染め
(正) 縫い締めすることにより防染して染め

● p.39 右段・2-3行目
(誤) 試みる。この制作時間を約30分間とすること。
(正) 試みる (制作時間は約30分)。

● p.41 7行目
(誤) 現する」ことが重要である。
(正) 現とは何か」を考慮することが重要である。

● p.41 下から3行目
(誤) リミシングで偶然の
(正) リミシングにより偶然の

● p.45 中段・9-10行目
(誤) 染料としていたが、
(正) 染料とするが、

● p.45 右段・1行目
(誤) も発色が全く
(正) 染色しても発色が全く

● p.45 右段・7行目
(誤) れた。植物は
(正) れる。植物は

● p.46 中段・3-5行目
(誤) 「植物そのもののかかわり」を自分なりに考
えることも必要だろう。
(正) 「植物とのかかわり」は作品の内容と大きくか
かわる。

● p.46 中段・7行目
(誤) 表現の内容にかか
(正) 表現にかか

● p.47 24-27行目
(誤) 酢酸アルミは、木綿・絹の2～10%の酢酸アル
ミを、木綿・絹の重さの20～40倍の水に溶かし
て使う。木酢酸鉄は、木綿・絹の10～50%
(正) アルミ媒染では、染める繊維の2～10%の酢
酸アルミを、20～40倍の水に溶かして使う。鉄媒
染では、10～50%

● p.47 30行目
(誤) の他の媒染では
(正) の他の媒染には

● p.72 中段上・図版キャプション
(誤) 参考アイテム・イメージスケール 川又志津
(正) 参考アイテム・イメージスケール 田辺明子

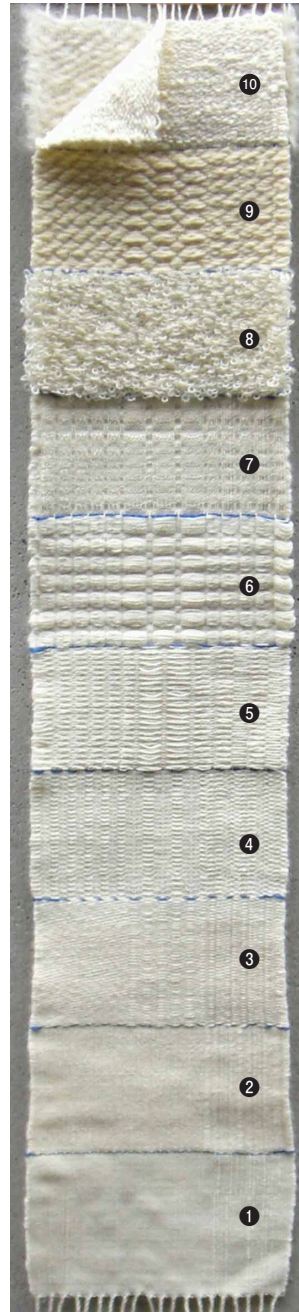
● p.72 右段上・図版キャプション
(誤) テクスチャー・イメージスケール 田辺明子
(正) テクスチャー・イメージスケール 川又志津

● p.72 左段・最下行・中段・1行目
(誤) ヴォリューム
(正) ウォーム

● p.72 右段下・図版キャプション
(誤) イメージコラージュ 池永映絵
(正) イメージコラージュ 松平裕美子

● p.81 中段・17行目
(誤) 縞とストライプ
(正) ストライプとチェック

● p.65 「縮絨前」図版を下図に差し替える



● p.43 図版 1 ケント紙と画用紙 ① を下図に差し替える



● p.73 「サンプルA・テクスチャーサンプル」図版を下図に差し替える

	経糸		緯糸	
	ウール1本 順通し	綿1本 山道通し	素材 組織	糸の本数 緯密度
6 素材コンビ			複数 自由	自由 自由
5 強燃糸			綿 展開組織	強燃糸 粗に
4 起毛とたたき			左ウール・右綿 展開組織	各1～2本 標準
3 縮絨			ウール 展開組織	複数 粗に
2 打込みと素材			綿 2/2RHT	1本 やや密に
1 標準平織			ウール 平織	1本 標準

- p.86 左下図版の最下行
(誤) 経糸総重量 g ×
(正) 経糸総重量 g ±

- p.87 「時間 MEMO」項目
(誤) 機械セットアップ
(正) 織機セットアップ

- p.87 最下行
(誤) 経糸総重量 g ×
(正) 経糸総重量 g ±

- p.88 「整経長(経糸の長さ)」項目
(誤) 4、経糸の縮み率
(正) 4、経糸の縮み分

- p.89 右段・下から9行目
(誤) 糸の太さ、撚り、密度、織の組織により異なる
(正) 糸の太さ、撚り、密度、織組織により異なる

- p.162 左段・(株) アナンダ 東京吉祥寺店 住所
(誤) 吉祥寺東 3-14-22
(正) 吉祥寺東町 3-14-22

- p.162 中段・染色工芸材料 三彩 住所
(誤) 渋谷区 2-14-5 1F
(正) 渋谷区渋谷 2-14-5 1F

【2007年8月 初版2刷】

- p.17 左段・下から2つ目のキャプション
(誤) Scorched Arth
(正) Scorched Earth

- p.29 下から2行目
(誤) 下の表の「2.染料」
(正) 下の表の「2.染料」と「3.グリエシンA」

- p.29 表
(誤) 5.ネオコール 5cc 5cc
(正) 5.ネオコール 0.5cc 5cc

- p.29 表
(誤) 水 Ycc 39cc
(正) 水 Ycc 39.5cc

- p.30 6-13行目
(誤) 刷り上がりのイメージ……黄色を最後にした。
(正) 捺染は低明度の色から行うのが一般的だが、決して一通りではない。事前に刷りの順番を変えたサンプルを作り、完成のイメージによって刷る順番を計画する必要がある。オーバーラップの発色効果を引き出す場合は明色、薄色から刷っていく。下の作例のように特に強調したい色みのある場合は明度に関係なく、強調したい色から刷ってみるのもよいだろう。

- p.31 11行目
(誤) 定着液(アミゲン)
(正) 定着液(モーリンフィックス3PN)

- p.64 左段・下から9行目
(誤) イノゲン SS
(正) ノイゲン SS

- p.64 右段・6-7行目
(誤) アミゲン NF
(正) モーリンフィックス 3PN

- p.64 右段・9行目と11行目
(誤) 湯で溶いた
(正) 水で溶いた

- p.64 右段・13-14行目
(誤) ハイノールフィックス
(正) タナフィックス

- p.66 右段上・図版キャプション「縮絨後」
削除する

- p.83 左段・下から7行目
(誤) イメージマップで
(正) イメージコラージュで

- p.140 左段上・図版キャプション
(誤) ㊟千枚通し
(正) ㊟鉄筆

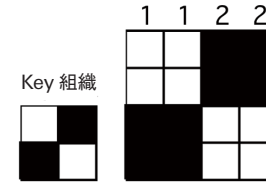
- p.140 右段・最下行
(誤) 千枚通し
(正) 鉄筆

- p.142 図版キャプション
(誤) 今井恵美子
(正) 今井恵美子

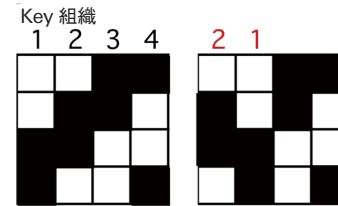
- p.162 右段・東京テキスタイル研究所 店名から URL まで
削除する

- p.55 「織組織の研究」の文章・図版を以下に差し替える
織物の組織は三原組織を基礎として変化し、または混合して作り出すことができる。代表的な方法としては、拡大法、交換法、組み合わせ法がある。経糸・緯糸の浮き・沈みをバランスよく考えることが大切である。目的を持つ布のデザインには、特にこの点を留意する必要がある。

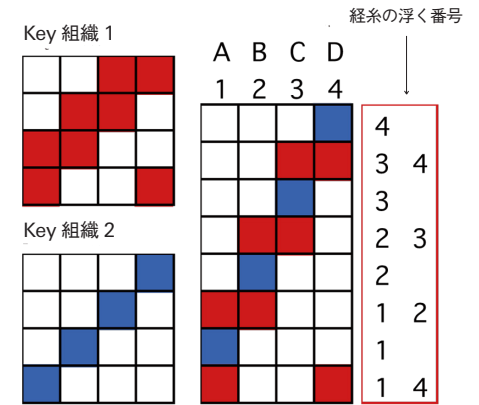
拡大法



交換法



組み合わせ法



● 綜統番号の決め方 (Drawing in Draft)

Aの一循環における組織点とBとは異なるので、Aを1の綜統とし、順次調べながら番号を印することと、綜統の通し方が決定される。